

視聴：「オフィスの画一化」を拒絶しはじめたワーカー

🕒 Read 3分



360リアルタイムポッドキャストChris Congdon氏へのインタビュー

イントロ: SteelcaseのグローバルリサーチコミュニケーションのディレクターであるChristine Congdon（クリス・コンドン）氏は、同じ手法でオフィスの効率性を目指す職場環境の画一化は、そこで働く人々のインスピレーションや創造性、社会的つながりといった可能性を制限するものだと主張する。

概要

多くのワーカーが今、旧態依然とした、画一化された刺激のない「オフィス」を拒絶し始めている。「効率追求による画一化」というこのアプローチは、インスピレーションや創造性、社会的つながりといった人間の可能性を制限するという。多くの人々が本物感や自己表現、そして、どこでどう働くかを自由に選ぶことを求めているのだ。これをある人は「オフィス・ルネッサンス」と名付けた。

この文化的ともいえるムーブメントは、職場環境であるオフィスに対して効率性だけを追求するのではなく、働く人々の身体的、認知的、情緒的なウェルビーイングを豊かにする多角的な視点の必要性を提示している。

活気に満ちたコミュニティにも近い、このダイナミックな新たな空間の創造は、生態系のようにそこで働く人々を全面的にサポートするように機能する。綿密に計画された「目的地」としてのスペースは、デザイン性、素材感、機能のすべてがバランスよく融合され、活気と時代のトレンドを超越する雰囲気を出している。

Steelcaseの360 マガジンの編集者であるChris Congdon氏とのインタビューでは、この文化的ムーブメントの背景にあるSteelcaseの莫大な研究結果と、従業員と企業の双方に利益をもたらすスペースがどのように働く人々の情緒的ウェルビーイングを高めるかを語っている。